

会 議 要 旨

会 議 名	平成29年度第1回 館山市コーラル会議
開 催 日	平成29年5月30日（火）午前10時～午前11時30分
開 催 場 所	館山市役所 本館2階会議室
出 席 者	<p>[委員(敬称略 50音順)]合計11名(欠席 2名)</p> <p>飯島 マルティーンヌ 石井 敏宏 石渡 秀嗣 清本 智美</p> <p>鈴木 ひとみ 鈴木 容子 滝口 力 土岐 明美</p> <p>羽山 敏雄 室 厚美 盛島 岳</p> <p>[市]</p> <p>田中副市長（途中退席）</p> <p>総合政策部企画課 網城課長、長谷川政策係長、大賀主任主事</p>
公開・非公開の別	公 開
傍 聴 人 数	0名（定員10名）
会 議 内 容	<p>1. 開会</p> <p>2. 市長挨拶（副市長代読）</p> <p>3. 委嘱状交付</p> <p>4. 自己紹介</p> <p>5. 会長及び職務代理者の選任</p> <p>互選により、第10期会長に土岐明美委員を選出した。</p> <p>土岐会長の指名により、第10期職務代理者に滝口力委員を選出した。</p> <p>6. 第4期館山市男女共同参画推進プラン策定についての諮問</p> <p>平成29年度末をもって計画期間が終了する『第3期館山市男女共同参画推進プラン』を引き継ぐ『第4期館山市男女共同参画推進プラン』の策定にあたり、館山市から館山市コーラル会議に対し諮問を実施した。</p> <p>議事進行： 土岐会長</p> <p>7. 議事</p> <p>（1）第3期館山市男女共同参画推進プランの取組結果について</p> <p>平成28年度の取組内容や進捗状況についての事務局報告。</p> <p>【質疑】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組の成果についてはどのように考えているのか。 <p>⇒第3期プランについては理念的な側面が強い。数値として表せるものとしては、現在行っている市民意識調査の結果や審議会等における女性委員割合などだが、それ以外ではっきり数値として現れる部分は少ない。今後策定する第4期プランにおいては数値指標を定め、成果を測る予定。</p>

- ・地域や企業への働きかけ、もしくは地域や企業が行うべき男女共同参画の具体的な姿、取組とはどのようなものか。
- ⇒商工会議所等へのチラシ配布や町内会の役員の女性登用推進の依頼等を行っているが、それぞれの事情があるため、すぐに男女共同参画の取組推進について了承いただけるわけではない。行政の中ならすぐに動けるが、相手がいる場合はすぐに取組が行えない状況である。
- ・審議会等における女性委員割合の中で、女性がリーダー（会長等）になっている割合はどうか。
- ⇒今年度は調べていない。一昨年は1割程度が女性だったと記憶している。
- ・審議会等における女性委員割合について、割合は増えてきているが、地域によっては保守的などところも多い。男性からも、女性登用に関する声を上げていただかないといけないと思う。委員の皆さんからも周知をお願いしたい。公共団体は取組を進めやすいのだが、民間企業については難しいところがある。
- ・2016年のジェンダー・ギャップ・インデックスを見ると、ルワンダが5位、その前の年が6位だった。94年のルワンダ大虐殺の影響により、国家再建のため女性の登用が不可欠ということで「リーダーの半分は女性」と決めてから20年がたち、男女平等が定着してきた。このことから、「外から枠をはめる」「女性の割合を決めて働きかける」等の施策は必要だと考える。

(2) 審議会等の女性委員割合に関する調査結果について

館山市の審議会等における女性委員割合（平成29年4月1日現在）についての事務局報告。

- ・女性委員割合26.64%（前年比較0.65%の減少）

(3) 男女共同参画関係活動報告

平成28年度の活動内容及び平成29年度の予定に関する事務局報告。

【鈴木ひとみ委員（千葉県地域推進員）による補足説明】

- ・平成28年度は男女共同参画センターのセンターフェスティバルにワークショップを出した。今年度は更に一般の方に啓発したいということで、12月3日にイオンモール木更津を会場にクリスマスイベントの形をとり、たくさんの人に参加してもらいながら、ワーク・ライフ・バランス等について話をできればと考えている。
- ・主な内容は、本橋朋子委員がピアノや歌ができるので、親子で遊べるような歌やパネルシアター等を行い、特にお父さんと子どもが体を使って一緒にふれあい、楽しめるような企画にしたいと考えている。
- ・毎年行っている寸劇による中学生向け出前講座について、今年度は11月1日に長狭学園で開催する。先日打合せに行ってきた。中学3年の公民の教科書に男女共同参画が出てくるので、ちょうどこのことを学んでいる良いタイミング。子どもたちにも楽しんでもらっている。

【土岐会長コメント】

- ・自分自身も房南中で寸劇を行ったときに見させてもらった。子どもたちも一緒に参加するので分かりやすく、学生のうちから男女共同参画に関する意識を持つことができる良い機会。他の委員の皆さんも是非参加していただければ。
- ・今日欠席の本橋朋子委員も地域推進員として活動している。

(4) 男女共同参画に係る市民意識調査概要

男女共同参画に係る市民意識調査実施概要や今後のスケジュールに関する事務局説明。

【質疑】

- ・市民意識調査の実施は何回目になるか。
⇒プランごとに行っているなので、今回で4回目となる。
- ・回収率39.6%という数字は以前と比べてどうか。
⇒以前より低い(前回は45.4%)。前回は締切前に督促のはがきを送ったが、今回は予算上の制約もあり、督促を行わなかったため回収率が少し下がったものと思われる。

(5) 第4期館山市男女共同参画推進プラン策定について

第4期プランの策定方針案、進め方の案に関する事務局説明。

【質疑】

- ・計画期間について、10年というのはどうか。前期を踏襲するなら10年でも良いと思うが、過去の計画は、前期とおおむね同じような形で策定していたのか。
⇒体系など大枠の部分は第1期プランの流れを汲み、時代の変化に合わせて追加すべき点を盛り込んできたという経緯がある。方向性は第1期からあまり変わっていないため、他の自治体でも10年、30年のスパンで方向性を示し、細かい事業計画や目標は都度見直しという形態をとっているケースがある。館山市としても同じような考え方に立って、計画期間を10年とすることを提案させていただいた。
- ・若い(子育てを始めた)世代が持っている男女共同参画の意識は10年前と違う。これからさらに10年という、もっと当たり前のように男女平等になっていると思う。それを踏まえて考えると、見直しは5年程度で行う必要はあると思うが、基本理念は10年で構わないと考える。
- ・理念は10年あるいはもっと恒久的な形で構わないと思う。理念よりもビジョンという捉え方になる。しかし、事業計画は、中期計画という3年ないし5年が多いため、もう少し短くて良いと思う。
- ・「適宜見直す」ではなく、5年なら5年で区切って見直すべき。
- ・多様性に関する許容範囲が狭いと感じる。そのことがいじめにつながる要因にもなっていると考えられるので、多様性を認める、インクルーシブソサエティという考え方もあるが、いろいろな生き方を認めていくという考え方を盛り込

んでほしい。

- ・策定にあたり、いろいろな方の意見を聞くというのは良いと思う。
 - ・資料に「3世代同居」がメリットのように表現されているが、消極的に同居を選んでいるケースもあり得る。これがセールスポイントと言えるかどうかは分からない。
 - ・ゴールドマンサックス証券のキャシー松井氏がウーマノミクスを提唱している中で、特殊出生率の問題も大切だが、男女の就業率の違いが大きいと言っている。女性の就業率上昇が、GDPを押し上げる効果があると主張している。また、「働く場面で活躍したいという希望を持つ女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会の意識醸成」とあるが、確かに内面からの意識醸成も大事だが、働く機会・チャンスを提供することが大きな行政の仕事だと考える。そうだとすれば、企業誘致の取組等が必要と考えるが、市ではどのようなことを行っているのか。
- ⇒担当部署が異なるため確かなことは言えないが、昨今の状況から、大きな工場等の誘致を進めるのは難しいと認識している。一方、場所を選ばないIT関係企業等の地方進出は増えており、今後はベンチャーの起業支援やIT企業の合宿誘致などにシフトしていくものと考えている。
- ・どの分野に焦点を当てるかが大事。たとえば、コールセンターは地方に進出し、若い女性をたくさん雇っている。コーラル会議とは直接関係ないかも知れないが、ターゲットを絞った企業誘致をお願いしたい。
 - ・市民意識調査の結果が出てはじめて課題が明確になる。
 - ・男女共同参画という言葉は古めかしいという印象がある。
 - ・まだ男女格差があることは事実なので、その視点はなくしてはいけない。

【土岐会長コメント】

- ・これから事務局が素案を作っていくことになるが、委員の皆さんには今後もしどし意見を出してもらいたい。

→計画期間については、理念や方向性の部分については10年間、施策や事業については5年間とすることで了承された。

8. その他

次回コーラル会議の開催日程は9月中旬ころを考えている。近くなってきたら日程調整を行う。

9. 閉会